

研修 岡村 恵子 議員

日時：平成29年7月22日(土)～24日(月)

場所：自治体学校 in 千葉 青葉の森公園芸術文化ホール(千葉県千葉市中央区青葉町977-
植草学園大学

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～千葉寺駅	鉄道	往復	253.8	3,400	2,060			5,460
佐野駅～千条台北駅	鉄道	往復	241.6	3,860	2,060			5,920
佐野駅～千葉寺駅	鉄道	往復	253.8	3,400	1,850			5,250
計				3,400	2,060	0	0	16,630

宿泊料@16,500×0泊 0 円
 交通費 16,630 円
 (うち航空運賃 0 円)
 計 16,630 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長

関口 一也



領収証No. D-2017144

2017年 7月22日

(FAX)

領 収 証

岡村 恵子 様

金 額	¥14,000-
-----	----------

但し 第59回自治体学校in千葉代として

学校参加費を含む

上記金額正に領収いたしました。

- 1. 現金
- 2. 小切手
- ③. 振込
- 4. クレジット()
- (¥)
- 5. その他()

50,000円以上
収入印紙

株式会社 日本旅行 千葉支店



扱者:加藤隆



自治体学校2017年IN千葉の報告書

(7月22日から24日まで開催)

報告者 岡村恵子

講義から私自身が学んだことを以下報告いたします。

7月22日(1日目)

全大会(記念シンポジウム)

「住民参加で輝く自治体を」

- コーディネーター 岡田知弘氏(京都大学)
- シンポジスト 渡辺治氏(一橋大学名誉教授)
- シンポジスト 中山徹氏(奈良女子大学大学院教授)

岡田知弘氏

「住民参加で輝く自治体を」

安倍政治による「地方創生」「国家戦略特区」の矛盾が一気に顕在化

①加計学園で、「地方創生」の国家戦略特区の「利益性」が明らかに。国家戦略特区の問題点が大きく広がってきている。問題点とは、手続きの密室性。利害関係者を含む少数の人間が政策決定。腐敗の温床に。首相官邸主導で、省庁の専門官僚制を排除。財務局の村度と前川氏の告発。地方自治体の目的を「経済成長」「国際競争力の強化」に鈍化させる。しかもその便益は特定企業、団体、個人に限定(今治=加計、新潟=ローソン)など自治体の理念に反する。

ここで大事なのは一人一人の基本的な人権と福祉の向上を目指す対抗軸と住民自治の構築である。

渡辺治氏

「都議選の結果と、安倍改憲、小池都政のゆくえ」

○都議選の結果をどう見るのか。

そして都議選の結果は、日本と東京にどんな影響を及ぼすのか。①安倍自民党の大敗は、軍事大国化、新自由主義政治、とりわけ、新自由主義政治に一定のブレーキ。しかし、野党共闘勢力の進出ではないので、安倍政権出鼻くじかれたが安倍改憲加速化した。

○安倍改憲の狙いの特徴。

2020年という改憲目標の年を設定してきたこと。改憲の本命が9条改憲にあることを明言した事。9条改憲方式で、加憲論を出してきた。

なぜ今、改憲論で加憲論。戦後3度目の共同が安倍改憲の前に立ち上がった。1回目は戦後の2度の改憲攻勢は60年安保闘争の共同。2回目は、9条の会型共同。3回目は安倍戦争法に立ち向かった総がかり行動の共同である。

○安倍改憲を阻む決め手—改憲発議を許さない

衆院選で改憲3分の2を崩し安倍をひきずりおろす。安倍改憲の息の根を止めるには、安倍政権を倒すしかない。共同を強めて戦争法廃止、護憲と福祉の連合政権を作ること。共同をめぐってはジグザグがある。観客になってはならない。みんなが主人公になるべきである。

中山徹氏

「開発型自治体の典型・大阪維新政治」

1、維新政治の特徴

- 地域諸問題を大規模開発で乗り越える。
 - * 経済対策として、カジノ万博、インフラ整備
 - * 広域自治体への権限集中＝大阪と構想
- 市民向け予算の削減
 - * 大規模開発の財源＝市民向け予算の削減＝大阪都構想
 - * なんでも民営化・・・地下鉄、保育所、水道 その他
- 民主主義、民主的教育の軽視
 - * 住民投票の再挑戦
 - * 組合攻撃
 - * 徹底した競争教育

2、自治体の特徴

①自治体の3類型

- * 開発型自治体
- * 市民共同型自治体
- * 態度保留型自治体

3、開発型自治体の行く末

- * **開発計画の立案**→財源確保→開発計画の実施→失敗→地域経済の低迷→市民生活の悪化→地域の疲弊→過大な人口減少予測が現実化→自治体消滅→**悪循環**

7月23日（2日目）

分科会

「どうなる国保～地域でつくる医療保障の視点～」

●講師 長友薫輝氏

国保の都道府県単位化で県と市の役割を確認することが大事。広域化は自治の形骸化という問題がある。

新たな医療費抑制の仕組みを理解することは、医療をめぐる現状を知ることが大事。「国保の都道府県単位化」「地域医療構想」「地域医療ケアシステム」など。

地域の医療保障をどうしていくのかというアクションが大事になってくる。
新たな公的医療費抑制策を知る。1980年代から継続した抑制策が進められてきた。

- ①受診抑制（自己負担額割合を増加）
- ②供給抑制（病院・診療所の減少、病床の削減。入院から在宅へ）
- ③診療報酬の操作
- ④他分野への移行（長期療養者を介護保険へ移行）
- ⑤生活習慣病対策
- ⑥医療費適正化計画の推進
- ⑦国保の都道府県単位化

国の地域の医療・介護をめぐる政策動向として社会保障費抑制策がある。
私達は、地域で医療保障をつくっていく視点が大事。

7月24日（3日目）

全大会

特別講演

●長澤成次氏（千葉大学名誉教授）

「社会教育・公民館の役割と地方自治をめぐる課題」

社会教育・公民館をめぐる政策動向の変化については、地方教育行政法「改正」と教育委員会への首長部局の権限拡大がネックであること。そして今自治体社会教育をめぐる何が起きているかと言えば、公共施設再生計画と社会教育施設の統廃合がある。さらにはさいたま市でおきている九条俳句不掲載事件など学習・表現の自由への攻撃があること。千葉市公民館指定管理者制度導入問題で問われたものは何か。地域住民の学習権保障に果たす地方自治体の課題として、社会教育・公民館の役割は大きなものがある。公民館で学ぶ意義は、住民の力でくらしと地域をつくることにある。

参加費

●3日間通し参加の場合
 自治体問題研究所個人会員 14,000円
 一般 16,000円

●部分参加の場合(自治体問題研究所会員、一般とも同額)
 7月22日 6,000円 現地分科会(21、22、23)
 7月23日 7,000円 は参加費のほかに、別途追
 7月24日 4,000円 加費用が必要です。

地元割引

●現地実行委員会をつくってご協力いただいている地元・千葉県
 では、住民や町村議会議員の皆様を対象に、地元割引がございます(県・市議会議員、自治体職員は除く)。詳細は、現地実行委員会
 にお問い合わせください。

現地実行委員会:千葉県自治体問題研究所内
 TEL 043-379-1400 FAX 043-379-1908
 E-mail: fp823527@tf7.so-net.ne.jp

新規入会者特典

●3日間通し参加、または部分参加で2日以上参加される一般の方で、
 自治体学校を機に自治体問題研究所に新規入会される方には、自
 治体学校当日受付で4,000円をキャッシュバックいたします。

※2日目の昼食について

7月23日(日)の会場(植草学園大学)周辺は飲食店が少ないので、
 お弁当のご注文をお勧めいたします。▶申込書の欄に○をつけてお申し込みください。

第59回自治体学校実行委員会

事務局 〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4階 自治体問題研究所内
 TEL 03-3235-5941 FAX 03-3235-5933 E-mail: info@jichiken.jp
 共催団体:自治体問題研究所/北海道地域自治体問題研究所/オホーツク地域自治体問題研究所/青森県地域自治体問題研究所/
 岩手地域総合研究所/福島自治体問題研究所/茨城県自治体問題研究所/とちぎ地域自治体問題研究所/ぐんま住民と自治研究
 所/埼玉自治体問題研究所/千葉県自治体問題研究所/東京自治体問題研究所/多摩住民自治研究所/神奈川自治体問題研
 究所/いしかわ自治体問題研究所/富山県自治体問題研究所/いしかわ自治体問題研究所/山梨地方自治研究所/長野県住民
 と自治研究所/静岡県地方自治研究所/東海自治体問題研究所/滋賀自治体問題研究所/京都自治体問題研究所/大阪自
 治体問題研究所/兵庫県自治体問題研究所/奈良自治体問題研究所/和歌山県地域自治体問題研究所/しまね地域自治研
 究所/岡山県自治体問題研究所/広島自治体問題研究所/徳島自治体問題研究所/香川県自治体問題研究所/愛媛県自治
 体問題研究所/高知自治体問題研究所/福岡県自治体問題研究所/長崎県地域自治体問題研究所/くまもと地域自治体研究
 所/みやざき住民と自治研究所

会場へのアクセス

7月22日・24日●
青葉の森公園芸術文化ホール
 〒260-0852 千葉市中央区青葉町977-1
 TEL 043-266-3511(代)
 ・京成千原線「千葉寺」駅から徒歩約15分。
 ・JR千葉駅東口バス2番乗り場から菅田駅行き、大宮団地行き、鎌取駅行き、
 リハビリセンター行きまで「ハーモニープラザ」下車徒歩約8分。
 ・JR千葉駅東口バス7番乗り場から大学病院、南矢作行きで
 「中央博物館前」下車徒歩約10分。

7月23日●
植草学園大学
 〒264-0007 千葉市若葉区小倉町1639番3
 TEL 043-233-9031(代)
 ・JR千葉駅東口バス11番乗り場から「植草学園」行きバスで約35分。
 ・千葉都市モノレール「千城台北」駅出口2から徒歩約10分。

SCHEDULE スケジュール

●7月22日(土)全体会
 12:00~ 開場・受付
 13:00~ 13:20
 歓迎行事
 13:30~ 13:40
 開校あいさつ/地元歓迎あいさつ
 13:40~ 16:20
 記念シンポジウム
 16:20~ 16:50
 特別報告
 16:50~ 17:00
 次回開催地あいさつ・
 事務連絡全体会終了
 18:00~ 20:00
 ちばの地酒を楽しむ交流会
 (参加者交流会)

●7月23日(日)分科会・講座
 9:30~ 16:00
 分科会・講座
 16:30~ 18:00
 ナイター企画

7月24日(月)全体会
 9:30~ 11:00
 特別講演(長瀬成次氏)
 11:00~ 11:15
 休憩
 11:15~ 11:30
 参加者感想
 11:30~ 11:45
 閉校あいさつ



©千葉県観光物産協会

小浜鉄道トロッコ列車と菜の花

みんなが先生 みんなが生徒
第59回 自治体学校 in 千葉

2017年7月22日(土)▶24日(月)
 青葉の森公園芸術文化ホール・植草学園大学

1日目●全体会 7月22日(土) 13:00~17:00

記念シンポジウム 住民参加で輝く自治体を



コーディネーター
岡田知弘 (京都大学)



パネリスト
渡辺 治 (一橋大学名誉教授)



パネリスト
中山 徹 (奈良女子大学)

主催●第59回自治体学校実行委員会

後援●千葉県/千葉県議会/千葉市/銚子市/市川市/船橋市/館山市/木更津市/松戸市/野田市/佐倉市/東金市/旭市/習志野市/柏市/勝浦市/市原市/流山市/八千代市/我孫子市/鴨川市/君津市/習志野市/浦安市/四街道市/袖ヶ浦市/八街市/印西市/白井市/富里市/南房総市/匝瑳市/香取市/山武市/いすみ市/大網白里市/酒々井町/栄町/多古町/東庄町/九十九里町/芝山町/横芝光町/一宮町/睦沢町/長生村/白子町/長柄町/長南町/大多喜町/御宿町/鋸南町/千葉県市長会/千葉県市議会議長会/千葉県町村会/千葉県町村議会議長会/朝日新聞千葉総局/読売新聞千葉支局/毎日新聞千葉支局/産経新聞千葉総局/東京新聞千葉支局/千葉日報社/共同通信社千葉支局/時事通信社千葉支局/千葉テレビ放送/(公財)ちば国際コンベンションビューロー/(公社)千葉市観光協会/(公財)千葉市文化振興財団/千葉市中央区商店街協議会 [2017年4月20日現在]



第59回

自治体学校 in 千葉



1日目全体会

7月22日(土)13:00~17:00
青葉の森公園芸術文化ホール

13:00~ 歓迎行事 民謡一座【遊】

千葉市文化振興財団では、「アーティストinくちば」を設立し、千葉市在住・出身など千葉市にゆかりがあり、市内で積極的に活動できるアーティストが登録されています。市民に広く公開することで、アーティストに活動の機会が与えられ、市民に熱い芸術と文化が発信されています。民謡一座【遊】は概念にとらわれない自由な発想で民謡に取り組んでいます。伝統的な民謡は勿論のこと、他ジャンルのアーティストとのコラボや独自のアレンジや演出が好評を得ています。
吉野光子(明)、紺谷英和(津軽三味線)、美波駒子(鳴り物)



13:30~ 開校あいさつ 学校長・八幡一秀

地元歓迎あいさつ 現地実行委員長・八田英之

13:40~ 記念シンポジウム 住民参加で輝く自治体を

コーディネーター:岡田知弘(京都大学/自治体問題研究所理事)
パネリスト:渡辺 治(一橋大学名誉教授)、中山 徹(奈良女子大学)
東京都が直面している、オリンピック開催に向けての大規模開発と豊洲市場移転問題、大阪での都構想、カジノ/博誘致問題、一方で人口減少が進む地方での地域再生への奮闘。一言で括れない地方自治のあり方について議論しようシンポジウムです。

16:20~ 特別報告 千葉県いすみ市のめざす地域づくり

報告者:石川伸一郎(いすみ市企画課)
いすみ市は、生物多様性を生かした豊かな地域づくり、学校給食米のすべてを有機米に、食文化を育成し「美食の街」に、地域経済の中心の担い手は中小企業・農業と位置付ける、などの取り組みを通じ、自治の方で地域を元気に、めざしています。

18:00~ ちばの地酒を楽しむ交流会(参加者交流会)

20:00 千葉県における清酒製造業の歴史は古く、寛永に軒、元禄に3軒が創業したと伝えられますが、徳川末期から急激に増加しました。県内の多古米や長狭米を原料に地噴水など純粋な水を加え醸造しています。会場の「さや堂ホール」は千葉市の指定文化財です。地酒に親しみながら、全国の皆さんとの交流を楽しみましょう。

- ◆会場:千葉市美術館「さや堂ホール」 割合には千葉県の素材を使った酒類を提供します。
- ◆会費:3,000円(運代、酒割代)
- ▶申込書の欄に○をつけてお申し込みください。

定員 150名

2日目分科会・講座

7月23日(日)9:30~16:00
植草学園大学

1●地域包括ケアの確立に向けて

助言者:石川 満(多摩住民自治研究所)
全国の都道府県では病床機能の再編成をする地域医療構想が策定され、医療の必要性の低い高齢者が地域に戻されます。一方、在宅医療・介護の一体化は進まず、在宅の認知症ケア等も不十分です。真の意味での地域包括ケアの確立には何が必要か、参加者とともに考えます。

2●子どもの成長を保障する-子どもの育ち・保育・教育

助言者:垣内国光(明星大学)
保護者の働き方からし方に困難が増す中、子どもたちの成長や発達が必要とされています。保育所で学校で地域で…。保育所保育指針や幼稚園指導要領の改訂は何をめざすのか、真に子どもたちの成長を保障するために必要な施策を考え合います。

3●防災まちづくりと「減災」を考える

助言者:中村八郎(NPO法人くらしの安全安心サポーター)
災害対策の基本は被害の最小化(減災)を追求することです。災害は地域の自然的条件と社会的な諸条件によって規定されるので、防災まちづくりもこれらの諸条件を総合的に取り組むことが必要です。分科会では地域社会における災害被害を最小にする防災まちづくりを誰が、どのように取り組むべきかを考えます。

4●上下水道のコンセッション・広域化は住民から「いのちの水」を奪う!

国は「成長戦略」と称して上下水道の民営化(コンセッション方式)を推進し、同時に、現在は原則市町村単位で行っている水道事業を大規模に統合・広域化しようとしています。「民営でよいよふ」 という楽観とともに、広域化により住民の声が自治体や事業体に届かない仕組みが作られようとしています。水道法「改正」は何をわらうのかそれを明らかにするとともに、広域化・民営化に反対し運動する地方議員、労働組合や市民団体の運動を担う人たちが一堂に集って議論をしたいと思います。

5●地域内循環型経済と地域づくり

助言者:岡田知弘(京都大学)
大規模公共事業やカジノ(CR)-企業誘致に頼らず、中小企業振興基本条例・公契約条例等を活用することで、現に地域を担っている中小企業や農家の育成と地域内経済循環を構築して地域生活を活性化させる方策を考えます。

6●公共サービスの産業化と公務労働

助言者:黒田兼一(明治大学)
公共サービスの産業化は、公共サービスを民間化することだけでなく、公務の職場にコスト原理と効率性原理を導入することです。非正規職員を増やす一方で、正規職員への人事評価制度の導入が強行されました。公務労働とはいったい何かを考え検証します。

7●公共施設とまちづくり

助言者:森 裕之(立命館大学)
全国で公共施設の再編統合が進められています。その背景には、公共施設の老朽化、人口減少、財政減退、地方創生政策があります。公共施設はコミュニティの基盤であり、行政の上からの計画は地域を破壊します。まちづくりの観点から公共施設のあり方を考えることが喫緊の課題です。

8●大規模開発を考える

助言者:中山 徹(奈良女子大学)
東京オリンピックや大阪万博とカジノ、リニアや新幹線延伸計画などに伴う大規模開発が、日本各地で計画され進んでいます。これらの開発は誰のためのものなのか、地域経済の発展や地域住民に不可欠なものなのか、住民視察で大規模開発を検証します。

9●地方創生政策の現段階と自治体の課題

助言者:保母武彦(鳥根大学名誉教授)
国土と地域の再編を進める仕組みとしての地方創生政策。その現段階を、全国各地の自治体の取り組みと安倍政権の国土政策の本質の両面から明らかにし、自治体と地域運動の課題を学び議論する場です。各地の取り組みを持ち寄りましょう。

10●よくわかる市町村財政分析

講師:大和田一祐(多摩住民自治研究所)、石山雄貴(学習院大学)
財政分析のベストセラー「習うより慣れろの市町村財政分析」四訂版が出ました。版されました。その執筆者が地方財政の基礎から、最新の動向(交付税のトッピング方式)までわかりやすく解説します。

11●いま憲法・地方自治を学び、活かし、守ることの意義

講師:小沢隆一(東京慈恵会医科大学)
今年には憲法・地方自治法施行70年。あらためて立憲主義、憲法の基本理念や地方自治の位置づけ、意義、公務員に求められる役割など基本を学ぶとともに、競争する国づくりを許さず、憲法が生きる社会と地域をどう作っていくのか、一緒に議論していきましょう。

12●どうなる国保～地域でつくる医療保障の視点～

講師:長友麻穂(津市立三重短期大学)
2018年度からスタートする国民健康保険の都道府県単位数化。各地で国保料の試算結果が明らかとなりました。基本的な国保制度の概要や都道府県単位数化の仕組みを把握し、地域の医療保障をどうつくるのか、みなさんとともに考えてみたいと思います。

現地分科会は、植草学園大学以外の場所で開催されます。また、自治体学校の参加費以外に別途追加費用が必要です。

21●戦跡とオスプレイ整備拠点をめぐり平和を考える

館山の戦跡、オスプレイ整備拠点をめぐります。館山をはじめ、南房総地域には数多くの戦跡が残っています。赤山地下壕は終戦時、実際に使用された地下壕跡です。地元の教師や市民が保存を訴え、市の文化遺産として公開されています。昼食は房州の地魚を使ったお弁当。水更津は、戦前から基地の街です。狭い市内に陸海空3自衛隊の基地があります。陸上自衛隊の基地は、日米地位協定上は米軍専用基地です。そこにオスプレイの整備拠点が置かれました。まさに「本土の神棚化」を象徴するのが水更津です。
◆追加費用:8,000円(バス代、昼食代) 定員 26名
◆集合:7月23日(日) 8:15(出発:8:30) JR千葉駅東口NTT前
◆解散:17:00 JR千葉駅東口付近(予定)

22●地産地消で地域おこしの里を訪ねる

いすみ市は農業と漁業の街。「ないものはない」、「あるもの(海、農業、人)はある」。そこに経済性を加えて地産地消に挑戦。勝浦市は黒潮が流れ、豊富な海の幸、リアス式海岸の神秘的な自然環境。日本有数のカツオの水揚げ量を誇っています。昼食は地産地消を推進。勝浦町では廃校となった小学校を「道の駅 保田小」として開設。新たなコミュニティの核、農林水産物の販売など農林漁業の経営安定と地域活性化をめざしています。
◆追加費用:7,000円(バス代、昼食代) 定員 45名
◆集合:7月23日(日) 8:15(出発:8:30) JR千葉駅東口NTT前
◆解散:17:00 JR千葉駅東口付近(予定)

23●先駆的な歴史と食文化をめぐる

日本における女流画家の先覚者、最初のイコン(聖画)製作者、山下りか守った10面のイコンが所蔵されているハリストス聖貞正教会。多古町町の味直産センターは産直運動と地域の農業振興に貢献。レストランで郷土料理のレバニギを堪能します。世界最初の農業協同組合(先相林組合)の結成、耕地整理など先進的な実践を行ってきた原胤学(原胤)の記念館を訪ねます。
◆追加費用:7,000円(バス代、昼食、入館料込) 定員 45名
◆集合:7月23日(日) 8:15(出発:8:30) JR千葉駅東口NTT前
◆解散:17:00 JR千葉駅東口付近(予定)

★ナイター企画★★★★★★★★★★★★★

16:30~18:00 植草学園大学

ナイター企画は参加者の自主交流の場です。事前のお申し込みは必要ありません。

①「まち研」交流会～住民の手で地域の未来を切り拓いていこう

よびかけ人:山口誠英(小山市市民自治研究会)、角田英昭(自治体問題研究所)
今この自治体も人口減少、地域再生、公共施設の統合、財政危機、公務の市場開放など課題山積です。住民の自治の力、提案力が問われています。各地のまち研活動の交流を通して地域の今と未来を考えていきましょう。

②自治体病院危機の現状と展望

よびかけ人:八田英之(千葉県自治体問題研究所)
安倍政権の下で自治体病院とくに郡部の中小病院の危機が深まっています。「いのちとくらし」研究所の調査研究を報告し、全国的な問題状況を考えます。

③わたしのまち、あなたのまちの生活保護を考えてみよう

よびかけ人:田川英信(全国公的扶助研究会)
毎年好評の企画です。小田原市のジャンパー問題は、決して他人事ではありません。生活保護を絵に描いた餅にしないために、地域でどのように動けば良いのでしょうか。生活保護について一緒に考えましょう。

④沖縄一危機に立つ平和と民主主義

よびかけ人:湯田 廣、池上洋通(おきなわ住民自治研究所準備会)
高江のオスプレイパッド、辺野古新基地建設で埋めて工事を強行する政府。沖縄の民意に反し、真向から立ち向かう翁長県政の攻防は、沖縄と全国の連帯・共同に注がれています。これからの展望を拓く交流を。

⑤自治体労働者交流会

よびかけ人:前田博史(自治労連)
自治体労働者が職場の課題や自治研活動、まちづくりの取り組みなど、テーマを設定して交流しあえる場です。ご期待ください!

3日目全体会

7月24日(月)9:30~11:45
青葉の森公園芸術文化ホール

特別講演 社会教育・公民館の役割と地方自治



長瀬成次(千葉大学名誉教授)
今日の自治体社会教育・生涯学習をめぐる論点は多岐にわたりますが、本講演では、あらためて戦後社会教育法制における社会教育の自由と自治の理念を確かめるとともに、さいたま市九条俳句不掲載事件、指定管理者制度、公共施設再生計画、地方教育行政法「改正」問題、地域学校協働政策、地方創生政策等に言及し、地域住民の学習権保障に果たす社会教育・公民館の役割と課題を考えます。

プロフィール:1951年東京都北区に生まれる。1972年東京都立工業高等専門学校卒業後、千葉大学教育学部・名古屋大学大学院教育学研究科博士課程を経て千葉大学教育学部教授(2000年4月~2017年3月)。この間、社会教育推進全国協議会委員長、「月刊社会教育」編集長、千葉大学理事などを歴任。現在、日本社会教育学会会長、千葉市社会教育委員、市川市社会教育委員。著書に「公民館ははたのちの 住民の学びを通して自治を築く公共空間」(自治体研究社、2016年)などがある。

参加者感想 自治体学校で学んだこと
開校あいさつ 実行委員長・松繁美和